

富山大学 学報

第268号

目 次

関 係 法 令……………1	人 事 異 動……………9
学 内 規 則……………2	学 内 諸 報……………9
富山大学組換えDNA実験安全管理規則の制定…2	教育学部附属学校（園）長の改選……………9
諸 会 議……………7	教養部長の改選……………9
学 事……………8	海外渡航者……………10
昭和60年度日本学術振興会東南アジア諸国	学内レクリエーション〈卓球大会，麻雀大会〉…10
派遣研究者の決定……………8	寄 稿〈遼寧大学のこと〉……………11
昭和61年度文部省在外研究員派遣予定者の決定…8	職 員 消 息……………15
昭和61年度文部省内地研究員の決定……………8	主 要 行 事……………15
昭和61年度日本学術振興会特定国	資 料……………18
派遣研究者の決定……………9	昭和61年度入学志願者数……………18

関 係 法 令

（官報掲
載月日）

（官報掲
載月日）

省 令

- 学校基本調査規則の一部を改正する省令
（文部1） 2・3
- 健康保険法施行規則の一部を改正する省
令（厚生） 2・10

規 則

- 人事院規則9－8（初任給，昇格，昇給
等の基準）の一部を改正する規則（人事
院9－8－4） 2・1

告 示

- 出納官吏事務規程第16条に規定する外国
貨幣換算率を定める等の件の一部を改正
する件（大蔵9，10） 2・6
- 政府の管掌する健康保険の保険料率を定
める件（厚生12） 2・10
- 日雇特例被保険者に関する保険料額並び
に日雇特例被保険者及びその事業主の負
担すべき額を定める件（厚生13） 2・10
- 政府の管掌する健康保険の任意継続被保

險者の保険料を前納する場合の納付すべき額を定める件（社会保険庁2）	2・12	郵政庁で定める条件に関する件（郵政130）	2・27
○学校給食実施基準の一部を改正する件（文部16）	2・19	○大学、短期大学、大学の学部、短期大学の学科及び大学の学部の設置を認可した件（文部22）	2・28
○外国あて通常郵便物の送達等に関し外国郵政庁で定める条件に関する件（郵政129）	2・27	○大学、短期大学及び大学の学部の設置を認可した件（文部23）	2・28
○外国あて小包郵便物の送達等に関し外国			

学 内 規 則

富山大学組換えDNA実験安全管理規則の制定

富山大学組換えDNA実験安全管理規則を次のとおり制定する。

昭和61年2月21日

富山大学長 大 井 信 一

富山大学組換えDNA実験安全管理規則

第1章 総 則

（目 的）

第1条 この規則は、大学等の研究機関等における組換えDNA実験指針（昭和57年文部省告示第131号。以下「指針」という。）に基づき、富山大学（以下「本学」という。）における組換えDNA実験（以下「実験」という。）の安全確保に関し必要な事項を定め、もって実験の安全かつ適切な実施を図ることを目的とする。

（定 義）

第2条 この規則において「部局」とは、実験を実施しようとする各学部、教養部をいう。

2 この規則において「部局長」とは、前項に規定する部局の長をいう。

（学長等の責務）

第3条 学長は、本学における実験の安全管理に関し総括する。

2 部局長は、指針及びこの規則に定めるところに従い、当該部局において行う実験の安全確保に努めなければならない。

第2章 安全委員会

（設 置）

第4条 本学に実験の安全な実施を図るため、富山大学組換えDNA実験安全委員会（以下「安全委員会」

という。）を置く。

（任 務）

第5条 安全委員会は、学長の諮問に応じて次の各号に掲げる事項について調査・審議し、及びこれらの事項に関して学長及び部局長に対し、助言又は勧告するものとする。

- (1) 実験に関する規則等の制定改廃
- (2) 実験計画の指針及びこの規則に対する適合性
- (3) 実験に係る教育訓練及び健康管理
- (4) 事故発生の際の必要な措置及び改善策
- (5) その他実験の安全管理に関する必要な事項

2 安全委員会は、必要に応じ実験責任者及び安全主任者に対し、報告を求めることができる。

（組 織）

第6条 安全委員会は、次の各号に掲げる委員をもって組織する。

- (1) 組換えDNA研究者 若干名
- (2) 各学部及び教養部から選出された前号以外の教官 各1名
- (3) 保健管理センター所長
- (4) 事務局長
- (5) 予防医学等に従事する者 1名
- (6) 本学に所属しない学識経験者 1名

2 前項第1号、第2号、第5号及び第6号の委員は、

学長が委嘱する。

(任 期)

第7条 前条第1項第1号、第2号、第5号及び第6号の委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長)

第8条 安全委員会に委員長を置き、委員の互選により定める。

2 委員長は、安全委員会を招集し、その議長となる。ただし、委員長に事故あるときは、委員長があらかじめ指名した委員がその職務を代行する。

(議 事)

第9条 安全委員会は、委員の3分の2以上の出席により成立し、議事は、出席委員の過半数をもって決する。ただし、可否同数のときは、議長がこれを決する。

2 第5条第1項第2号の議決については、委員が当該実験計画の実験従事者となっている場合は、その者を除く出席委員の過半数をもって決する。

(意見の聴取)

第10条 安全委員会が必要と認めるときは、委員以外の者の出席を求め、その意見を聞くことができる。

(庶 務)

第11条 安全委員会の庶務は、庶務部庶務課において処理する。

第3章 安全主任者等

(安全主任者)

第12条 実験を行う部局に、実験の安全確保について部局長を補佐するため、安全主任者を1人置く。

2 安全主任者は、当該部局の教官で指針及びこの規則を熟知するとともに、生物災害の発生を防止するための知識及び技術並びにこれらを含む関連の知識及び技術に習熟した者をもって充てる。

3 安全主任者は、当該部局長の推薦に基づき、学長が任命する。

4 安全主任者の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、補欠の安全主任者の任期は、前任者の残任期間とする。

(安全主任者の任務)

第13条 安全主任者は、実験の安全確保に関し次の各号に掲げる任務を果たすものとする。

(1) 実験が指針及びこの規則に従って適正に遂行されていることを確認すること。

(2) 実験責任者に対して指導助言を行うこと。

(3) その他実験の安全確保に関する必要な事項を処理すること。

2 安全主任者は、前項に規定する任務を果たすに当たり、安全委員会と十分連絡をとり、必要な事項について安全委員会に報告するものとする。

(実験責任者)

第14条 実験ごとに、実験計画の遂行について責任を負う者として、実験責任者を定めなければならない。

2 実験責任者は、実験従事者のうち、指針及びこの規則を熟知するとともに、生物災害の発生を防止するための知識及び技術並びにこれらを含む関連の知識及び技術に習熟した者のうちから定めなければならない。

(実験責任者の任務)

第15条 実験責任者は、次の各号に掲げる任務を果たすものとする。

(1) 実験計画の立案及び実施に際して、指針及びこの規則を十分に遵守し、安全主任者との緊密な連絡の下に、実験全体の適切な管理・監督に当たること。

(2) 実験従事者に対し第27条に規定する教育訓練を行うこと。

(3) 実験計画を学長に提出し、その承認を受けること。実験計画を変更する場合も同様とする。

(4) 実験の終了又は中止の報告を行うこと。

(5) その他実験の安全確保に関して必要な事項を実施すること。

(実験従事者)

第16条 実験従事者は、実験の計画及び実施に当たって安全確保について十分に自覚し、安全主任者及び実験責任者の指示に従うとともに、指針及びこの規則を遵守し、安全確保に努めなければならない。

2 実験従事者は、実験の実施に当たってあらかじめ病原微生物に係る標準実験法並びに実験に特有な操作方法及び関連する技術に精通し、習熟していなければならない。

第4章 実験計画

(実験計画の承認)

第17条 実験を実施しようとする実験責任者は、別表に定めるところにより、所定の実験計画書等を所属部局長を経て、学長に提出し、その承認を受けなければならない。また、実験計画を変更しようとするときも同様とする。

2 学長は、申請のあった実験計画について、安全委員会の議に基づき、承認を与えるか否かの決定を行うものとする。

3 学長は、前項の決定を行う場合において、指針により文部大臣の承認又は認定を必要とする実験計画については、安全委員会の議を経た後、あらかじめ文部大臣の承認又は認定を受けるものとする。

(承認通知)

第18条 学長は、前条の決定を行ったときは、当該部局長にその旨通知するものとする。

2 前項の通知を受けた部局長は、安全主任者及び当該実験責任者にその旨通知するものとする。

(審査基準)

第19条 第17条第2項及び第3項の規定による安全委員会における実験計画の審査は、次の各号に掲げる事項について、指針に対する適合性に関し検討することにより行う。

(1) 封じ込めの方法

(2) 実験室又は実験区域（以下「実験室等」という。）及び実験設備

(3) 実験責任者及び実験従事者の知識及び技術

(4) その他安全委員会が必要と認める事項

第5章 実験の安全確保のための措置

(安全確保)

第20条 実験は、その安全を確保するため、病原微生物実験室で一般に用いられる標準実験法を基本とし、指針に定める実験の安全度評価に応じて、物理的封じ込め及び生物学的封じ込めの2種の封じ込めの方法を適切に組み合わせて計画し、実施しなければならない。

(実験室等及び実験設備の安全及び保全)

第21条 部局長は、実験室等及び実験設備を指針の定める物理的封じ込めのレベルに従って設置し、その管理及び保全に努めなければならない。

(実験室等の表示)

第22条 実験責任者は、実験室等及び実験設備に当該実験の程度に応じて、指針の定めるところにより、表示しなければならない。

(点検)

第23条 実験責任者は、実験室等及び実験設備の管理保全の状態を適宜点検しなければならない。

2 実験責任者は、前項の点検で異常を認めたときは、直ちに必要な措置を講ずるとともに、その旨を部局長及び安全主任者に報告するものとする。

(実験室等への立入り)

第24条 実験責任者は、実験関係者以外の者の実験室等への立入りについては、当該実験の程度に応じて、制限又は禁止の措置を講じなければならない。

2 実験責任者は、実験従事者以外の者（安全主任者を除く。）を実験室等に立ち入らせたときは、別紙様式3の帳簿に必要な事項を記入し、当該帳簿を当該実験終了後5年間保管しなければならない。

(実験試料等の取扱い等)

第25条 実験従事者は、実験の開始前及び実験中において、常時実験に用いられているDNA供与体、宿主、ベクター等が生物学的封じ込めの条件を満たすものであることを厳重に確認するとともに、実験試料の取扱いについては、物理的封じ込めのレベルに応じて指針に定める実験実施要項を厳重に遵守しなければならない。

2 組換え体及び組換え体を含む材料（以下「組換え体等」という。）は、組換え体等であることを明示し、当該組換え体等を用いる実験に関して定められた物理的封じ込めのレベルの条件を満たす実験室等に安全に保管し、容易に実験室等の外へ漏れないようにしなければならない。

3 組換え体等を実験室等の外に運搬する場合には、組換え体等をびん又は缶に入れ、内容品が漏出しないように密封した上、堅固な箱に納め、箱には、万一容器が破損しても完全に漏出物を吸収するよう綿その他の柔軟な物を詰めるとともに、包装物の表面の見やすい所に「取扱注意」の朱文字を明記しなければならない。

4 組換え体等及び組換え体等によって汚染されたすべての廃棄物は、廃棄前に消毒しなければならない。

5 実験責任者は、組換え体等の保管、運搬又は廃棄に当たっては、別紙様式4、別紙様式5又は別紙様式6による帳簿に必要な事項を記録するとともに、当該帳簿を当該実験終了後5年間保存しなければならない。

(実験の記録及び報告)

第26条 実験責任者は、実験中は別紙様式7の帳簿に実験の記録を行い、当該実験終了後5年間保存しなければならない。

2 実験責任者は、実験が終了したとき又は実験を中止したときは、速やかに別紙様式8の報告書を作成し、部局長を経て、学長に報告しなければならない。

第6章 教育訓練及び健康管理

(教育訓練)

第27条 実験責任者は、実験開始前に実験従事者に対し、指針及びこの規則を熟知させるとともに、次の各号に掲げる教育訓練を行わなければならない。

- (1) 危険度に応じた微生物安全取扱い技術
- (2) 物理的封じ込めに関する知識及び技術
- (3) 生物学的封じ込めに関する知識及び技術
- (4) 実施しようとする実験の危険度に関する知識
- (5) 事故発生の場合の措置に関する知識

(健康管理)

第28条 学長は、実験従事者に対し、実験の開始前及び開始後1年を超えない期間ごとに健康診断を行わなければならない。

- 2 学長は、実験従事者が病原微生物を取り扱う場合には、実験開始前に予防治療の方策についてあらかじめ検討し、必要に応じ抗生物質、ワクチン、血清等の準備をしなければならない。また、実験開始後6月を超えない期間ごとに特別定期健康診断を行わなければならない。
- 3 学長は、P3レベル以上の実験区域で実験が行われる場合には、実験開始前に実験従事者の血清を採取し、実験終了後2年間はこれを保存しなければならない。
- 4 学長は、実験室内感染のおそれがある場合には、直ちに健康診断を行い、適切な措置をとらなければならない。
- 5 学長は、健康診断の結果を記録し、保存しなければならない。
- 6 学長は、実験従事者が次の各号の一に該当するとき又は第7項に規定する報告を受けたときは、直ちに調査するとともに、必要な措置をとらなければならない。

らない。

- (1) 組換え体を誤って飲み込み、又は吸い込んだとき。
- (2) 組換え体により皮膚が汚染されたとき。
- (3) 組換え体により実験室及び実験区域が著しく汚染された場合に、その場に居合わせたとき。

7 実験従事者は、絶えず自己の健康管理について注意するとともに、健康に変調をきたした場合又は重症若しくは長期にわたる病気にかかった場合には、学長に報告しなければならない。また、この事実を知り得た者も同様とする。

第7章 緊急事態発生時の措置

(緊急事態発生時の措置)

第29条 実験責任者及び実験従事者は、次の各号に掲げる事態が発生したときは、直ちにその旨を当該部局長及び安全主任者に通報するとともに、災害防止のための応急の措置を講じなければならない。

- (1) 地震、火災等の災害によって組換え体が実験施設外へ漏出し、又は漏出するおそれのあるとき。
- (2) 組換え体によって人体や実験施設が汚染され、又は汚染されたおそれのあるとき。

2 前項の規定により通報を受けた部局長及び安全主任者は、直ちに適切な措置を講ずるとともに、当該部局長にあってはこの旨を学長に報告しなければならない。

第8章 雑 則

第30条 この規則に定めるもののほか、実験の安全確保に関し必要な事項は、別に定める。

附 則

この規則は、昭和61年2月21日から施行する。

—職員会館の宿泊の御案内—

◎利 用 日……土・日曜日及び祝日も利用できます!!

◎申し込み……利用日の2日前までに!!

◎門限時刻……午後10時 ……御協力を……!!

別 表

承認及び認定の申請手続

承認又は認定の対象事項	申請書類及び提出部数	提出期限
1 文部大臣の認定を受けた宿主―ベクター系を用いる実験	組換えDNA実験計画申請書（別紙様式1）1部 組換えDNA実験計画書（別紙様式1の2）課題ごとに5部 ただし、科学研究費補助金による実験については、研究計画調書の写しを課題ごとに5部添付すること。	毎月10日まで。 ただし、科学研究費補助金による実験については、毎年11月5日まで。
2 文部大臣の承認を要する実験 (1) 動植物培養細胞を宿主とする宿主―ベクター系をB2レベルとして行う実験（指針第2章第2節第1の4） (2) 封じ込めの方法の基準が明示されていない微生物をDNA供与体として使用する実験（指針第3章第2節1の表の3, 4, 8及び12） (3) 非純化DNAを使用する実験に使用する培養槽の規模が20ℓを超える場合（指針第3章第2節1のただし書） (4) 物理的封じ込め又は生物学的封じ込めのレベルを一段下げて行う実験（指針第3章第2節2） (5) 文部大臣の承認を得た宿主―ベクター系を用いて得られた組換え体の増殖実験について、物理的封じ込めレベルを一段下げて行う実験（指針第4章第2の2） (6) 特に配慮を要する下記の実験（指針第5章） イ 新しい宿主―ベクター系の開発等のため、文部大臣の認定を受けていない宿主―ベクター系を使用する実験 ロ 脊椎動物に対する蛋白性毒素産生能を有する遺伝子のクローン化実験 ハ 組換え体の動植物個体への接種を含む実験 ニ 組換え体の自然界への散布を含む実験 (7) その他の実験	組換えDNA実験計画申請書（別紙様式1）1部 組換えDNA実験計画書（別紙様式1の2）課題ごとに5部 ただし、科学研究費補助金による実験については、研究計画調書の写しを課題ごとに5部添付すること。 なお、(1)又は(6)のイの実験については、未認定の宿主―ベクター系の使用計画書（別紙様式1の3）を5部添付すること。 また、指針第3章第1節を参考に封じ込めレベルの判断の参考となる説明資料を5部添付すること。	
3 新しい宿主―ベクター系の認定を申請する場合	宿主―ベクター系の認定申請書（別紙様式2）6部 また、認定に当たっての判断の参考となる説明資料を4部添付すること。	

別紙様式1～8（省略）

▶ 富山大学組換えDNA実験安全管理規則の制定理由
大学等の研究機関等における組換えDNA実験指針

(昭和57年文部省告示第131号)に基づき、本学における組換えDNA実験の適切な実施を図るため、必要な事項を定める。

諸 会 議

第6回入学者選抜方法研究委員会(2月4日)

(審議事項)

- (1) 国立大学の受験機会の複数化に関するアンケートについて
- (2) 帰国子女・社会人等の特別選抜方法について

第3回保健管理センター委員会(2月6日)

(審議事項)

- (1) 人事について
- (2) 教官昇任人事について

第5回部局長懇談会(2月7日)

(懇談事項)

- (1) 教育職員の退職手当の特例措置の適用について

第8回学園ニュース編集委員会(2月10日)

(審議事項)

- (1) 第51号学園ニュースの編集について

公開講座第3回委員会(2月13日)

(議 題)

- (1) 昭和61年度公開講座の実施計画について

第4回大学院委員会(2月14日)

(審議事項)

- (1) 昭和61年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)第2次入学試験合格者の判定について

第7回学寮補導委員会(2月14日)

(報告事項)

- (1) 寮生との話し合いの結果について

(審議事項)

- (1) 受験生宿泊について

第5回附属図書館商議会(2月14日)

(報告事項)

- (1) 次期図書館長候補者の決定について

第6回補導協議会(2月18日)

(報告事項)

- (1) 日本育英会奨学生の推薦について

(審議事項)

- (1) 昭和61年度入学生行事日程について

第3回体育施設協議会(2月18日)

(審議事項)

- (1) 第3体育館について

第12回評議会(2月21日)

(報告事項)

- (1) 昭和61年度富山大学大学院理学研究科(修士課程)及び工学研究科(修士課程)第2次入学試験合格者の判定について
- (2) 教官人事について(教育学部)
- (3) 共通第1次学力試験について
- (4) 学生の動向について

(審議事項)

- (1) 富山大学組換えDNA実験安全管理規則(案)の制定について
- (2) 富山大学工学部核燃料物質計量管理規則(案)の制定について
- (3) 昭和61年度富山大学教育専攻科及び経済学専攻科入学者選抜試験合格者の判定について

第5回教務委員会(2月24日)

(報告事項)

- (1) 外国人留学生懇談会について

(審議事項)

- (1) 昭和61年度非常勤講師について

第3回学長選考基準検討委員会（2月27日）

（議題）

(1)学長選考基準について

(1)富山大学構内交通規制に関する暫定実施細目の一部改正について

第8回事務協議会（2月28日）

（審議事項）

(1)非常勤職員の取り扱いについて

第53回構内交通対策委員会（2月27日）

（審議事項）

学 事

昭和60年度日本学術振興会東南アジア諸国派遣研究者の決定

所 属	職	氏 名	派遣先	研 究 課 題	派遣期間
理学部	教 授	小黒 千足	タイ	海産両性類のカルシウム代謝に関する研究	61. 3. 17) 61. 3. 29

昭和61年度文部省在外研究員派遣予定者の決定

種 類	学 部 名	職 名	氏 名	主たる滞在地名及び当該滞在地の属する国名	調 査 研 究 題 目	派遣期間
長期(甲)	教育学部	助教授	山野井敦徳	バッファロー (アメリカ合衆国)	欧米における日本研究の動向	10月
	理 学 部	〃	岡部 俊夫	アントワープ (ベルギー)	高分解能電子顕微鏡による結晶学研究	〃
短 期	人文学部	教 授	藤井 一行	ワルシャワ (ポーランド)	西欧・東欧諸国におけるロシア・ブルクス主義の受容・研究状況に関する調査	2
	教育学部	〃	神谷 重徳	ロンドン (連合王国)	西欧における自閉症児及び精神遅滞児の療育	〃

昭和61年度文部省内地研究員の決定

所 属	職	氏 名	研究場所	研 究 課 題	派遣期間
工学部	助 手	平澤 良男	東京工業大学	高温用複合材料を対象とした熱物性に関する研究	61. 5. 1) 62. 2. 28

昭和61年度日本学術振興会特定国派遣研究者の決定

所 属	職	氏 名	派遣先	研 究 課 題	派遣期間
工学部	助教授	坂井 純一	連合王国	宇宙プラズマ物理学	62. 1. 1 } 62. 6. 30

人 事 異 動

異動区分	発令年月日	氏 名	異動前の所属官職	異 動 内 容	任命権者
臨時的任用	61. 2. 4	大 島 榮 子		養護教授(教育学部附属養護学校)	富山大学長
退職	61. 3. 1	小 島 敦 子	事務補佐員(経済学部)	昭和61年2月28日限り退職した	"
	"	井 波 外志子	教務補佐員(教養部)	"	"
	"	本 田 善 彦	事務補佐員(附属図書館)	"	"
	"	藤 木 彌三郎	" (")	"	"
併 任	61. 2. 20	平 田 純	教授(人文学部)	附属図書館長, 評議員(61.2.20~63.2.19)	文部大臣

学 内 諸 報

教育学部附属学校(園)長の改選

教育学部附属小学校長, 同中学校長, 同養護学校長及び同幼稚園長の任期が, 昭和61年3月31日に満了することに伴い, 教育学部教授会は, 2月19日に次期附属学校(園)長候補者の選挙を行った。その結果, 附

属小学校長候補者に林良重教授, 同中学校長候補者に吉岡周明教授, 同養護学校長候補者に中川孝教授, 同幼稚園長候補者に中谷唯一教授が, それぞれ再選された。任期は, 昭和61年4月1日から2年間。

教養部長の改選

杉本新平教養部長の任期が, 昭和61年3月31日で満了することに伴い, 教養部教授会は, 2月12日に次期教養部長候補者の選挙を行った。その結果, 杉本現教

養部長が再選された。
任期は, 昭和61年4月1日から2年間。

海 外 渡 航 者

渡航の種類	所 属	職	氏 名	渡 航 先 国	目 的	期 間
海外研修旅行	教育学部	教 授	相馬恒雄	インドネシア	インドネシア国における研究 交流とウジュンパンダン周辺 の地質研究のため	61. 2. 12 } 61. 2. 21
	〃	助 手	結城善之	〃	インドネシア南スラウェシ、 ハサヌディン大学との農業に 関する共同研究打合せ及び資 料収集のため	〃

学内レクリエーション

〈卓 球 大 会〉

本学レクリエーション委員会体育部会卓球班主催に
よる昭和60年度学内卓球大会が、去る 2 月15日(土)富山
大学第 2 体育館で実施されました。

なお、成績は次のとおりです。

団体戦

優 勝 人文学部・理学部チーム

次 勝 工学部チーム

三 位 教養部チーム

個人戦

男子 (A)

優 勝 能手哲治 (人文学部・理学部)

次 勝 大聖寺一孝 (工学部)

三 位 川辺 誠 (教育学部)

男子 (B)

優 勝 鈴木敏昭 (人文学部・理学部)

次 勝 武本光雄 (人文学部・理学部)

三 位 石川裕史 (教養部)

女子

優 勝 菅原千賀子 (教育学部)

次 勝 三浦みより (教養部)

三 位 井波外志子 (教養部)

〈麻 雀 大 会〉

本学レクリエーション委員会娯楽部会麻雀班主催に
よる昭和60年度学内麻雀大会が去る 2 月22日(土)富山大
学職員会館において、14チーム56名の参加により実施
されました。

なお、成績は次のとおりです。

団体戦

優 勝 人文学部・理学部

永森, 堀, 武本, 西村

準優勝 経営短期大学部

岡田, 門前, 小林, 竹田

三 位 庶務部 A

西村, 樋口, 中林, 泉

個人戦

優 勝 人文学部・理学部

永森俊夫

準優勝 庶務部

泉 三郎

三 位 人文学部・理学部

堀 和實

名人賞 教育学部

川邊 誠

B・B 賞 学生部

向 雅己

寄 稿

〈遼寧大学のこと〉

富山大学理学部 高 木 光司郎

1. まえがき
2. 遼大の規模
3. 中国の大学の中での遼大の位置づけ
4. 遼大の組織
5. 教職員の構成
6. 人事
 - (1)学長の人事
 - (2)教職員の人事
7. 教職員・学生の生活
8. 物理系
 - (1)スタッフ
 - (2)教育
 - (3)学生実験
 - (4)受講
 - (5)研究
 - (5 a) オフィス
 - (5 b) 言葉の壁
 - (5 c) 研究室と研究者
 - (5 d) 研究者としての意識
 - (5 e) 教育と研究
 - (5 f) 世界銀行
9. 外事処
10. 留学生
11. 私の生活
12. 引用文献

1. まえがき

富山大学と遼寧大学は、1984年友好学術交流協定を結び、相互の教官交流を行っている。第一回目は富山大からは人文学部の三宝政美教授が遼寧大（以後「遼大」と略記）へ派遣され、遼大からは仲玉林講師が派遣され、当工学部の宮下研究室に滞在した。今年は第二回目として、私が富山大から派遣され、中国に9月23日から11月21日まで2ヵ月滞在した。このうち10日程瀋陽を離れていて、又最後の10日余りは、北京—合肥—上海と旅行して上海から帰国した。結局40日足らず遼大物理系に滞在したこととなる。

この間、馮学長、張副学長、邱外事副処長といった方々から、厚く迎えて頂いた。又物理系の多くの先生方にも暖かく迎えて頂き、多くの尊敬できる先生方を

見出し、又親しい友人を作ることが出来た。滞在中は、毎日毎日が面白くて、11月になり、瀋陽滞在期間が日一日と減って行く頃は、夏休みが終りに近づく頃の小学生の心境で暮していた。又、合計して20日間ほど旅行し、これも楽しいものだったが、このアレンジは遼大の外事処と物理系が行ってくれた。私が快適に暮せたのは、遼大側の配慮によるもので、心からお礼を申しあげる。

この滞在期間中、私は遼大のことを色々と知ろうと努力した。しかし、中国の大学の機構に対する理解不足、利用できる資料の乏しさ、その他の事情に妨げられ、十分理解出来たとは言い難い。資料の乏しさということでは、驚くべきことだが職員名簿がない。1985年にやっと発行された遼寧大学という55頁の大学紹介のパンフレット（(1)、以下（遼大）として引用する）は唯一の貴重な資料なのだが、職員構成のデータ等は古くて、現在とは大きく違っている。

遼大については、既に三宝教授の報告（(2)、(3)、）があり、そこではすぐれたスケッチともいえるべき記述がなされている。

以下私の目から見た遼大について報告を書きたいと思う。三宝教授の報告がスケッチなのに対し、私は、もう少し細部まで書き込んだ油絵を描くことを試みた。以下の記述で、私は正確を期したが、誤りも多いと思う。今後遼大に派遣される人々に訂正していただきたい。又、遼大の先生方には、以下の記述の中に、耳障りの部分も少なくないと思う。暖かく迎えて頂いた私としては心苦しいことであるが、遼大を正しく理解するために必要だと私が思っていることを書くので、許して頂きたい。今後、富山大と遼大との間の関係はますます密接なものになって行くと思われる。遼大を理解する上で、この拙文が少しでも役立てば幸である。

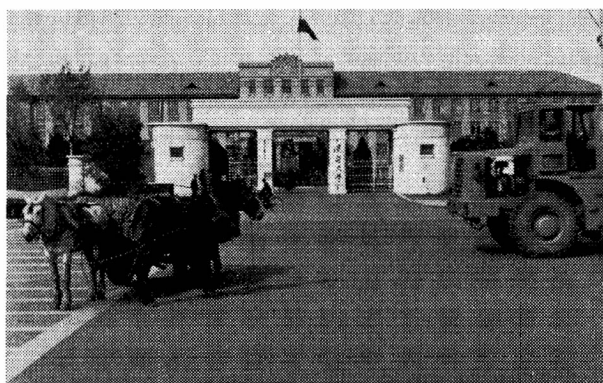
2. 遼大の規模

4年制の大学で、修士課程は3年間で、博士課程はない。大学には、10の系と経済管理学院、3つの教研室と日本研究所、計算機応用研究所から成っている。10の系とは、中文、歴史、哲学、法律、外語、数学、計算機科学、物理、化学、生物である（遼大）。系は日本の大学の学部に相当する。各系はいくつかの専業

(専攻)に別れ、これが、日本の学科に相当すると思っ
てよいだろう。

学生数は4735人、(学部4600人、大学院 135人)、
他に夜学と専修科(短大に相当)がある。職員数は21
50人、このうち教員約1100人、(教授23, 副教授 210
講師 500, 助教 150, 未定職 200)である。富山大と
比して学生数は少い位だが、職員数が多いのが目立つ。
(これについては後述)

キャンパスは、面積が 440,000平方メートル(1)で、東西 1
km, 南北 500m といったところ。キャンパスには多く



大学前的大通りから見た遼寧大学図書館

の建物があるが、その大半を占めるのは、教職員と学
生のための宿舎である。一部の例外を除いて、学生全
員と全教職員とその家族が、このキャンパスの中に住
んでいる。教室も宿舎も面積不足である。現在8階建
ての大きな主教棟を建築中だが、これ位では面積不足
は解消しそうにもない。

3. 中国の大学の中での遼大の位置づけ

中国の大学はすべて国立大学だが、その中にはいく
つかの区分と階層がある。ここで区分というのは、大
学が政府の各部〔日本の省〕に属していることである。
総合大学は教育部〔日本の文部省〕に属しているが、
医科大学や薬科大学は衛生部〔日本の厚生省〕に属す
というわけで、単科大学は、それぞれの各部に属して
いる。(教育部に属す単科大学もある)

次に階層というのは、中央政府の指導による大学、
省政府の指導による大学、市政府の指導による大学と
いう階層である。中央政府直属の中に、特に重点校が
あり、これは規模、質ともに第一級の大学である。教
育部に属するものとしては、世界的に有名な北京大学、
清華大学(いずれも北京)、復旦大学(上海)等がある。
遼寧省では、大連工学院(大連)が教育部直属の
重点校である。又、遼寧省には教育部以外の部に属す
る重点大学もある。例えば瀋陽市にある東北工学院は

冶金部に属している重点大学である。第二の階層に属
する大学は、各省〔県〕の直接の指導下にある。これ
を省の大学と呼ぶことにすると、遼寧省の重点校は二
つあり、第一が我が遼寧大学であり、第二が遼寧師範
大学(大連)である。第三の階層に属する国立大学は、
市の指導下にある。

瀋陽市には遼大の他に20校近い大学があり、我々に
馴染みのある所では昔の満州医大の後に中国医科大学
がある。他に有名大学として、瀋陽薬学院、遼寧建築
工程学院や前述の東北工学院等がある。

全国に 805校(1983年現在(4))の大学があるが、遼
大は、遼寧省の重点校の一つということで、日本流に
言えば、中堅どころの地方大学と理解しておけば大体
当たっているだろう。

大学は遼寧省瀋陽市(旧奉天)の北部にある。瀋陽
市は、中国重工業の中心都市で、人口 400万は中国第
4位で、都市部の人口は 250万で、街は人、人、人で
ごった返している。冬のスモッグは中国一といわれて
いて、11月になると夜は、街灯がぼんやりとかすみ、
霧のロンドンを連想させる。私の滞在期間中10月中は
よく晴れていて日中は暖かったが、10月の中旬に氷が
はり、11月の初めに例年より遅い初雪があった。私は
本格的な冬が来る前に瀋陽を去ったが、12月、1月の
平均気温は、それぞれ、 -8.5°C と、 -12.0°C (4)であ
る。冬には小さなグラウンドに水をまいてスケートリ
ンクを作る。

4. 遼大の組織

細かい所は(遼大)を見て頂くこととし、日本とか
なり違うと思った所のみをあげる。中国の大学のごく
常識的なことなのだろうが、大学が校長をトップとす
る第一の機構と共産党の書記をトップとする党委員会
による第二の機構の二本建てになっている。大学を代
表するのは校長で、馮校長とはよくお会いした。党の
書記には、国慶節のパーティーで一度お会いしただけ
であるが、大学での影響力は強いものがあると聞いた。
第一の機構は、学生に対する授業や、先生方の研究等
を担当し、第二の機構は学生、職員の行動や思想的な
面を指導する。

私にとって一番わかりにくいのが、この党の役割り
や、学内での影響力である。大学の中央に党委員会が
あり、その下に各系毎の党総支部があり、更にその下
に各専攻毎の党支部がある。総支部や、支部はそれぞ
れの系や専攻に属する職員の党員により支えられてい
るが、党の専属の活動家の指導を受けている。学生に

も党員がいて、職員の場合と同様な総支部や支部がある。

党の仕事としては、週一回、午後全部の時間をつかう政治学習のための会議を主催することで、これは、それぞれの職場や各専攻等に別れて、全職員、全学生が参加する。特に現在は文化大革命の経験を総括するための1学期で、全職員が週に2回又は3回、午後には会議に出席しなければならなかった。このような会議は中国の全職場で行われることで政治教育が、中国での教育で大きなウェイトを占めていることが推察できる。

又、学生に対しては、会議の他に、3年まで、毎週2時間、政治や哲学等の講義が正規の講義時間の中で党の指導のもとにおいて行われている。マルクス主義教研室がこの講義を担当する。又、個々の学生の生活上の規律に注意をはらい指導を行うのも、党の大事な仕事である。

5. 教職員の構成

表Iに遼大と富山大の職員数の比較を行った。中国の大学は、キャンパスに全職員の宿舎、全学生の宿舎、学生の全食事を賄う食堂、病院等を含んだ一つの社会である。単純な数字の上の比較は難しい点がある。しかし教員数については、日本の大学と対応して考えられると思う。教員は教授、副教授、助教、未定職者から成っている。未定職者は、遼寧省から教員として割りあてられたものだが、まだ位置の未定のものである。あと日本の技官に相当する教補人員が200人いて、この中には、学生実験室や研究室に属する人もいるが、これは教員としては分類されていない。

表Iを一見してわかることは、富山大よりは、全体的数がはるかに多いこと、教授の数が極端に少ないこと、講師の数が多いこと、未定職が相当数いることである。教授の数が少ないのは、文化大革命以後、教授への昇進が未だにストップしていることが直接の原因であると思われる。講師の数が多くは、後述する様に講師から副教授への昇進が難しく、且つ、助手から講師への昇進が殆んど自動的に行われるためである。未定職が多いのは社会主義社会独特の事情だと思うが、私見は控えたい。

教官数が過剰気味であることの紹介、年令構成や職員構成のアンバランス、その原因等の分析は、中文系に対しては、三宝先生の記述(2)があり、その中で文革の影響についてふれている。

表I 遼寧大、富山大の職員数

	遼寧大 ⁽¹⁾	富山大 ⁽⁵⁾
全職員数	2150	761 ^a
教員数(大学)	約1100	383
教授	23	133
助教授 ^b	約210	155
講師	約500 ^c	35
助手	約150	60
未定職	200	0

a 附属幼稚園、小・中学校、養護学校を含む。

b 副教授は助教授と、助教は助手として分類した。

c (1)のデータに1983年の助教授への昇進72名を考慮して行った推定値。

6. 人事

(1) 学長の人事

前回の学長任命までの経緯について聞いたことを記す。遼寧省政府と党の合同の工作隊が大学に調査に来る。大学教職員全員に適任者とその推薦書を提出させる。又、調査会を開く。これらを参考にして、適任者を選ぶ。これを参考にして省と党が最適者を決定し、最後に中央の党が任命する。

(2) 教職員の人事

助手は、大学の各系の主任が、他の先生方の意見を参考にして決定する。これは物理系では2年後には自動的に講師になる。他の系でも事情は似ているだろう。講師から助教授への昇進は、各系の学術委員会(物理系では教授2、副教授5)が資格者の中から選考する。これを国の教育部に提出するが、教育部では、教授、副教授、講師、助手の比率を検討した上で、決定する。中国では定員はきまっていないで、比率が大事なのだという。副教授の資格の1つに、語学の試験がある。物理系に例をとれば、物理系の英語に堪能な先生が出題し、物理系の講師が受験する。丁度私の滞在中に、英語の試験があったが、合格者は少なかった様である。問題が難しいというより、英語の学力が不足しているらしかった。日本の例で言えば、論文博士に対する語学の試験を連想したらよいだろうという遼大の一先生の説明があった。

教授も、同様に学術委員会が選考し、教育部が決定する。ただ文化大革命以後、教授への昇進がストップしているので、教授の数は少ない。定年制はあるが、定年が何歳であるかは未定なので、教授の老齢化は進む一方である。

現状を改革するために、1990年までに次の案が計画

されている。全教員中、教授10%、副教授20%、講師40%、助教（助手のこと）30%という比率にする予定である。又65歳で副教授になれない人は、副教授にして引退、副教授の定年は70歳、教授の定年は、未定である。（改革計画については、最近、遼大内で行われた昇進に関する説明会出席者から聞いた話である。）

7. 教職員・学生の生活

私が付合いのあったのは教職員や学生であるが、その人達の生活についてふれて見たい。

教職員のサラリーは、助手が初任給62元、講師になると100元～140元、副教授は140～180元、教授は180～300元或いはそれ以上という事であった。（元は85年9月末で80円だったが、11月始めでは65円に下がっていた。）物価が安い、宿舍費が安いといった所で、食費だけでも一人最低30～40元はかかる。助手の人などは、基本的な生活だけで、後は何も残らない様であった。どの家も皆夫婦共稼ぎであったが、電気製品が日本よりも高いことを思うと、テレビ（白黒が多いが）や洗濯機が普及しているのが（冷蔵庫は殆んど普及していない）不思議に思えた。

遼大では職員が実によく煙草を吸う。中国式のエチケットとして誰かが煙草を吸いたくなると、必ず「どうですか」「いや、結構」「そんな事は言わずにどうぞ」「それでは一つ」といった調子で、一緒にいる人全員が煙草を吸うことになる。次に他の誰かが吸いたくなると、又、皆一緒に吸う。一箱平均0.5元はするから、少く見ても月に20元ぐらいい煙にしてしまう。上記のサラリーから考えたよりは裕福なのかもしれない。実際、先生方の家に招待されたり、訪問したりしたが、家は狭かったが、貧しいという印象は受けなかった。家が狭いといっても、私達でも20年前は、ずい分狭い所に住んでいたものである。

宿舍は、教授、副教授、講師、助手と明解な差別がある。講師のアパートを見せてもらったが、14㎡の部屋が3つあり、1つを夫婦の寝室兼書斎、1つを2人の子供の寝室兼勉強部屋として使い、1つが台所・トイレ・玄関であった。風呂はなく、共同である。家賃は6元でこれは安い。教授の家はこれより大きく、電話があり、副教授の家も電話がある家がある。助手は学生寮と同じ大きさの（12畳位か）部屋に5人位で住んでいる。結婚していても、別居している。アパートの建築は進んでいるが、住宅難は深刻である。不思議なことは、大学職員が大学をやめても、その子供がそのままその住宅を使うという不文律が定着している。

そのため、大学の宿舍の30%は遼大と無関係の人が住んでいるということであった。新しいアパートがどんどん建たない限り、この割合は常に増加して行くことは数学的に明白である。住宅難のため、大学の教室に住んでいる先生もいる。講義のある教室のとなりに先生の家族が住んでいて、講義の時間にそこを通ったら、廊下で先生が白菜を漬けているのを見かけた。もっとも、我々にしたところで、終戦直後は、大学内に住んでいる先生方もいたから、これを奇異に思うのは、物忘れが激しいせいかも知れない。

学生達は、瀋陽市に家のある人の一部をのぞいて全寮制である。学費、宿舍費は無料で、食費は30元位かかる。1977年に入試が再開された頃は、大学生は、国から毎月10～20元奨学金を貰えたが、2～3年前からこれが廃止され、成績優秀者に対する報奨金となった。30人のクラスで1、2番が年に100元、次の5人位が、年に50元、主要課目の1番が20元貰える。又、非常に家の貧しい人は、奨学金を貰える。大学院学生は、全員46元貰える（最近、大学院を卒業したばかりの人の話）。キャンパス内をお湯を入れたポットを持って歩いている学生が目立つ。生水が飲めないためだ。食事時になると、食堂へ行き、そこで食事をするか、又は食事を寮まで持って帰って食べるかどちらかである。食堂もスペース不足で、机はあるが椅子はなく、立ったまま食事をしている。

遼大で暮していると、中国人は日本人よりも一回り体が大きい事を感じる。特に私にとって目立つのは、女学生の背が高く、165cm位の人のごく普通にいて、170cm以上もざらににいるという印象を受けた。しかも、体つきが例外なくスマートである。

これはよく聞く話だが（例えば、(2)）学生の恋愛は禁止されている。これは、入学時にそういう注意がある。大切な国費を使って教育を受けている者は、学問に専念すべしという社会的要請の表れだろう。この様な規律を保つのが、党委の仕事である。規律を守らない学生は注意を受け又、マークされ、卒業時の就職の時等に不利になる。ところが、ある卒業生から、そんな事は平気だ。という話も聞き、私にはよく実情がわからなかった。

私自身は、いつも7時10分からの朝食に間に合う様に起きていたが、ある日、6時頃のキャンパスをのぞいた事がある。驚いた事には、キャンパスの主な道路には、昼食時の富山大のメインストリート位の人が行き交い、ジョギングしている人もたくさんいる。グラ

ウンドでは先生の号令にもとづき1000人位の学生が体操をしている。6時30分近くになると体操が終え、皆グラウンドからどこかへ駆けて行ってしまった。太極拳をやっている数人～十人位のグループもある。6時半位だったが食堂も活気を呈していて、大勢の学生が出たり入ったりしていた。学生も職員もその家族も、おそくとも6時には起き、体操やジョギングを行い、食事をして、8時からの授業開始に備えている。

学生は大体午前中講義、午後は実習や会議で、放課後は図書館や教室で勉強し、時間が余ればスポーツや

音楽を楽しむ、基本的にはよく勉強すると、学生達自らがそう語っていた。図書館の閉館が9時で、あとは寮に帰って10時頃就寝という所らしかった。

▶ 筆者は、本学と中国遼寧大学との友好学術交流の締結に基づく交流教官として、昭和60年9月23日から同年11月21日まで「遼寧大学との学術交流及び中国でのレーザー研究の視察」を目的として中国の各大学を視察されましたので、特に寄稿を御依頼したものを2回に分けて掲載させていただきます。

職 員 消 息

《住所変更》

人文学部

助 教 授 磯 部 彰

主 要 行 事

本 部

- 2月1日 学内バドミントン大会
- 3～4日 臨時東海・北陸地区国立大学事務局長会議
(於 愛知教育大学)
- 3～13日 学内会計監査
- 4日 第6回入学者選抜方法研究委員会
第2回学生部(救助艇)機種選定委員会
- 7日 部課長会議
第5回部局長懇談会
庶務係長会議
- 8～15日 富山大学入学願書受付
- 10日 第8回学園ニュース編集委員会
- 13日 公開講座第3回委員会
- 14日 第4回大学院委員会
第7回学寮補導委員会
- 15日 学内卓球大会
- 18日 第6回補導協議会
第3回体育施設協議会

- 20日 第1回事務電算化学務専門部会
- 21日 第12回評議会
- 22日 東海・北陸地区国立大学長会議(臨時)
(於 名古屋大学)
- 学内麻雀大会
- 24日 第5回教務委員会
- 27日 第3回学長選考基準検討委員会
第53回構内交通対策委員会
第6回学務関係係長会議
学生健康保険組合理事会
- 28日 部課長会議
第8回事務協議会

人 文 学 部

- 2月5日 教授会
人事教授会
学内会計監査
- 12日 大学院設置準備委員会

13日 事務連絡会 真率会役員会 後学期通常授業終了	8日 後学期授業終了
15日 和崎教授退官最終講義	10日 学部職業補導委員会
17日 大学院設置に伴う実地調査 専攻科修士論文受付締切	12日 学部教務委員会 人事教授会 教授会
19日 教授会	19日 学部教務委員会 人事教授会 教授会
21日 事務連絡会 集中講義期間終了	20日 学部図書委員会（持ち回り）
25日 紀要委員会 入学者選抜調査書審査	22日 経済学専攻科合格者発表 財務委員会（持ち回り）
26日 大学院設置準備委員会	25日 学部施設整備委員会
28日 事務連絡会	26日 財務委員会（持ち回り） 学部将来構想検討委員会（経営短期大学部 と合同）

教 育 学 部

2月2日 附属中学校入学者第1次選考（学力検査）
4日 学内会計監査 附属小学校入学者第1次選考（発育検査）
5日 学部教務委員会
6日 附属中学校入学者第2次選考（抽選）
8日 教育専攻科入学者選抜試験 附属小学校入学者第2次選考（抽選）
12日 後学期授業終了 学部教務委員会・補導委員会合同会議 学部補導委員会 人事教授会 教授会
19日 大学院設置準備委員会 教授会
20～21日 第28回国立大学教育工学センター協議会及 び研究会（於 千葉大学）
22日 教育専攻科合格者発表
24～26日 教員養成学部学生合宿研修（冬季） （於 県営ゴンドラスキー場）

経 済 学 部

2月5日 各種委員選考委員会
7日 経済学専攻科入学者選抜試験及び選考委員 会 学内会計監査

理 学 部

2月4日 大学院理学研究科（第2次）調査書審査
5日 学内会計監査
6～7日 大学院理学研究科（第2次）入学者選抜試 験
12日 理学研究科委員会 学科主任会議
13日 事務連絡会 真率会役員会
15日 大学院理学研究科（第2次）合格者発表 後学期授業終了
19日 教授会 人事教授会
21日 事務連絡会
24日 入学者選抜調査書審査
28日 事務連絡会

工 学 部

2月
4～5日 大学院工学研究科（第2次）入学試験
6日 学内会計監査
10日 学部教務委員会
12日 工学研究科委員会 専任教授会

14日 大学院工学研究科（第2次）合格者発表
 19日 教授会
 20日 後学期授業終了

14日 第5回附属図書館商議会
 24日 係長事務打合せ会

教 養 部

2月1日 夜間主検討委員会
 3日 学内会計監査
 5日 教務委員会
 12日 教養部長候補者選挙
 教授会
 人事教授会
 14日 授業終了
 19日 教務委員会
 25日 紀要委員会

トリチウム科学センター

2月13日 学内会計監査

保健管理センター

2月4日 臨時健康診断（教養部スキー実習参加者）
 6日 第3回保健管理センター委員会
 13日 学内会計監査
 18日 臨時健康診断（教養部スキー実習参加者）

附 属 図 書 館

2月3日 電算化ワーキンググループと富士通SEとの打合せ
 6日 係長事務打合せ会
 12日 学内会計監査

経営短期大学部

2月10日 学部教務委員会
 12日 学内会計監査
 20日 教授会
 26日 将来構想委員会（経済学部と合同）

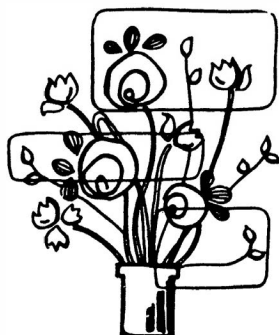
資 料

昭和61年度入学志願者数

学 部	学科・課程	昭 和 61 年 度			昭 和 60 年 度		
		募集人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者数	倍率
人文学部	人 文 学 科	95	354	3.7	90	270	3.0
	語 学 文 学 科	95	244	2.6	80	208	2.6
	計	190	598	3.1	170	478	2.8
教育学部	小 学 校 教 員 養 成 課 程	140	159	1.1	140	305	2.2
	中 学 校 教 員 養 成 課 程	50	122	2.4	50	183	3.7
	養 護 学 校 教 員 養 成 課 程	20	49	2.5	20	58	2.9
	幼 稚 園 教 員 養 成 課 程	30	93	3.1	30	123	4.1
	計	240	423	1.8	240	669	2.8

経済学部	昼間主 コース	経 済 学 科	144	352	2.4	120	390	3.3
		経 営 学 科	124	433	3.5	120	573	4.8
		経営法学科	102	771	7.6	60	293	4.9
		小 計	370	1,556	4.2	300	1,256	4.2
	夜間主 コース	経 済 学 科	20	44	2.2	—	—	—
		経 営 学 科	20	45	2.3	—	—	—
		経営法学科	20	42	2.1	—	—	—
		小 計	60	131	2.2	—	—	—
	計		430	1,687	3.9	—	—	—
理 学 部	数 学 科	43	64	1.5	40	59	1.5	
	物 理 学 科	35	46	1.3	30	50	1.7	
	化 学 科	43	69	1.6	40	58	1.5	
	生 物 学 科	35	66	1.9	30	71	2.4	
	地 球 科 学 科	32	84	2.6	30	74	2.5	
	計	188	329	1.8	170	312	1.8	
工 学 部	電 気 工 学 科	53	154	2.9	50	94	1.9	
	工 業 化 学 科	48	146	3.0	45	206	4.6	
	金 属 工 学 科	43	197	4.6	40	138	3.5	
	機 械 工 学 科	53	164	3.1	50	155	3.1	
	生 産 機 械 工 学 科	43	202	4.7	40	116	2.9	
	化 学 工 学 科	43	109	2.5	40	113	2.8	
	電 子 工 学 科	43	70	1.6	40	63	1.6	
	計	326	1,042	3.2	305	885	2.9	
合 計	1,374	4,079	3.0	1,185	3,600	3.0		

- (注) ・昭和61年度理学部物理学科の募集人員には、第2次募集人員(12)を除く。
 ・昭和60年度理学部物理学科の募集人員には、第2次募集人員(10)を除く。



編 集 富 山 大 学 庶 務 部 庶 務 課
 富 山 市 五 福 3 1 9 0
 印刷所 中 央 印 刷 株 式 会 社
 富 山 市 下 奥 井 1 - 4 - 5
 電 話 3 2 - 6 5 7 2 (代)